

## <日本子ども支援学会2019年3月ワークショップ>

### 幼稚園教育の未来

日時:2019.3.2(土)2:00~4:00

場所:東京駅八重洲北口会議室ルノアール

総合司会:清 文枝会員

司会:斎藤恵子会員

講師:河村真理子会員、門脇薫子会員

#### <レクの前に>

日本では、「女性が輝く時代」のスローガンのもとで、(必ずしも幼い子どもの成長環境としては十分な条件を満たさない) 保育園も急増。待機児童ゼロ政策が声高にうたわれて、子どもの発達初期に望ましい成長環境とは何かについての視点は、ともすれば失われがちではないでしょうか。いま幼稚園の置かれている状況、そして今後、幼い子どもたちのウェルビーイングをどう考えればいいのか。当日のレジュメを掲載して、ワークショップのご報告にしたいと思います。(深谷和子)



(左から 深谷昌志、河村真理子、門脇薫子、斎藤恵子の諸氏) \*撮影:清 文枝会員

# 「幼稚園教育を考える」

河村真理子(育英幼稚園園長)

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ  
人間、どう生きるか、どのようにふるまい、  
どんな気持ちで日々を、送ればいいのか、  
本当に知っていなくてはならないことを、わたしは  
全部残らず幼稚園で教わった」

ロバート・フルガム

## 1) 幼稚園制度の概要

<対象> 満3歳から小学校就学の始期に達するまでの幼児

<教育時間・週数> 1日4時間を標準(幼稚園教育要領)

年間39週以上(学校教育法施行規則第75条)、夏期休業・冬季休業有り(学校教育法施行令第29条)。  
3歳以上について共通になる。

保育内容の5領域はすべての幼稚園・保育所・認定こども園の3歳以上について、同一のものが指導されるようになった。

※地域の実態や保護者の要請により、教育課程に係る教育時間の終了後に希望する幼児を対象に「預かり保育」を実施する。

<教育課程> 幼稚園教育要領(文部科学大臣が定める)によるものとする。

<幼稚園教育の基本> 幼稚園教育は、学校教育法第77条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。このため、教師は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。

注1: 2018年の改定により

3歳以上の幼児期の施設での教育を「幼児教育」と呼ぶ。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は

背景として、小学校就学前の就園率が幼保で同じ程度になったことと、研究や実践の積み重ねから幼児教育が幼児期に不可欠の教育であることが認識されたことなどがある。

注2: 幼稚園教育要領改訂 2018

<ポイント> 資質・能力によって、幼児教育と小学校以上の学校教育で育成される子どもの力を共通に表す。

(1) 「知識及び技能の基礎」

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする

(2) 「思考力・判断力・表現力等の基礎」

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする

(3) 「学びに向かう力・人間性等」

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

## 2) 幼稚園ってどんなところ？

### —育英幼稚園(東京都)の事例から

#### ○育英幼稚園の教育

創立から87年。大正自由教育の理念を受け継ぎ、子どもの主体的な活動を大切に考えた祖父が設置しました。その理念を受継いで、子ども一人ひとりの個性を尊重する教育をこころがけています。居心地の良い温かな環境の中で、子どもたちが感性を育み、生きる力を身につけていくようにと願いながら。子どもたちが遊びを通して学び、自発的に思いっきり遊ぶ体験を通して、さまざまなことを学ぶことを願っています。

教員は審判ではなく伴走者という考えで、毎日、全教員でその日を振り返り、子どもたちの成長を共有します。幼児期に幼稚園での生活が、その子どもの人間形成の土台になることを信じて、真摯に毎日子どもと向き合っています。

#### ○幼稚園の未来予想

- ・保育ニーズ(保育所+幼稚園)は、ほとんどの都道府県で2040年にかけて減少
- ・保育所ニーズは2020年以降もほぼ横ばいだが、2040年の幼稚園ニーズは、2015年実比標準ケースは半分以下、就業率が高めに推移すると出生率が高めでも3割未満に縮小。「2040年までの保育ニーズ将来展望と対応の在り方」(2017年10月31日) 日本総研:池本 美香

#### ○幼児教育の経済学

ジェームズ・J・ヘックマン

「幼児教育への投資が社会全体にもたらす経済効果は、その後の就学期、就学後のへの投資よりもはるかに大きい。つまり、幼児期に質の高い教育を行えば、成人した時の税負担の能力が高まり、そればかりか生活保護などの社会保障費用も抑制できる。質の高い幼児教育とは、認知能力(学力などの能力)だけではなく、非認知能力(意欲や忍耐力・協調性などの能力)が重要である。非認知能力は幼児期に育まれたものが成人してから成果が出てくることが報告されている。

#### ○幼児期の大切さ

##### 1)「子供の脳は5歳までに準備しなさい」

ジル・スタム

幼児が「安心」と「愛情」をどの程度感じられるかがその後の発達に直接の影響を与える。

それをつかさどる「脳幹」と「辺縁系」は生後5年でほぼ出来上がる。

認知能力を育む大脳皮質は何歳になっても変化できる。

##### 2) 発達心理学のサイドから

深谷和子

ヒトは発達の初期ほど、養育者(多くは母親、または母親代理者)との間に安定したボンディング(絆)が形成され、競争者、侵入者のいない安全な(いい意味で閉ざされた)環境に置かれることが必要。多くの子どもは「家庭、家族」という小さい集団の中で、安全、安心な成長をスタートさせていく。世界は安心なもの、自分は世界の中心、という認識で人生のスタートを切り、その後少しずつ大きな(必ずしも安全でない他者もいる)世界を体験していくのが、望ましい発達のプロセスである。動物の育児にみるように、人類も長い間、産んだ子どもをいわばカンガルー状態(家族の中)で育ててきた。

しかし最近の日本のように、幼い時期から少しでも長い集団的保育時間の中に置かれること(保育園等)に子どもを置こうとする風潮は、単に「大人の都合から」に過ぎない。欧米では、育休制度(父親も母親も)を充実させ、その後に幼稚園、保育園(といっても、日本のように「学校」に近い場ではなく、個人の住宅に近い雰囲気を持った幼稚園、保育園での)環境を設定して、その成長を保証しようとしている。

しかし、人手不足の現状や「女性が輝く時代」などの政策的キャンペーン、また「待機児童ゼロ」がスローガンとして掲げられる時代の中で、(必ずしも経済的にさし迫った必要はないのに)乳幼児のいる母親たちがそぞろ外へ出ようとするかのような風潮に、発達心理学者たちは心を痛めています。

### 3) 子ども・子育て支援新制度の問題点

#### ○政府の諸施策

2017年、子ども・子育て支援新制度が発足し、政府は「すべての子どもたちが笑顔で成長していくために」諸施策を打ち出した。

- ・認定こども園の普及
- ・待機児童を減らす
- ・子育て支援の量の拡充や質の向上を進める
- ・子どもが減ってきている地域の子育ての支援

しかし、東京都の80%、目黒区の100%の私立幼稚園は現状の幼稚園であることを選択している。育英幼稚園もこども園にしないがその理由は、「長時間保育」が問題と考へ、①子どもへの負担が大きい ②家庭生活を大事と考へている③教育の質の低下への懸念(振り返り・記録・準備等の時間の確保が難しくなる)④教員の数・預かるための環境が適当ではない、と考へるからであり、また、「応諾義務」が生じることも懸念される。管轄が文部科学省から内閣府に移り、入園希望が自治体に委ねられる。幼稚園には建学の教育の理念があり、それを理解して入園をしてもらえない可能性が出てくる。

#### ○幼児教育の無償化の問題点

OECDにおける日本の就学前教育段階の投資支出は加盟国30国中最下位であったので、2019年10月よりの幼児教育の無償化は評価できるが、保育所に預ける家庭は無償、幼稚園に通う家庭は25,700円補助ということで、結果として、保育所に預ける人が増えることが予想される。それにより、待機児童が増加、保育所・保育士の不足、保育の質の低下が懸念される。

果たしてこれらは、少子化解消になるか。受皿になる保育所・幼稚園への支援は？

### 4) 子どもが愛され安全に守られるために

社会全体で、子育てをしている父親・母親が子どもとともにいられるような働き方改革を！

幼稚園に通う間は時短・休職ができるように、子育て経験は決して無駄ではない。さまざまな理由で預けなければならない子どものための保育所や施設を数多く作るのではなく、手厚く質を高める。幼稚園・保育所の環境・教育の質の向上に資する取り組みが必要であろう。

- 安全・安心・快適な施設環境への投資
- 幼児教育を担う仕事の社会的地位の向上を
- 幼稚園教諭・保育士の待遇改善

<おわりに>

子ども支援学会で子どもの幸せのためにできることは！ (了)

# 「子どもファーストに考える」

—生きる力を育むための実体験を大切に

門脇薫子（大和幼稚園副園長）

## 1) 大和幼稚園の概要

祖父母が設立した園で、創立 83 周年。東京 23 区の中では広い園庭と自然のある恵まれた幼稚園で、園児数は現在約 278 名、教職員 30 名と保育補助者 4 名。しかし保育園増設の施策の波は当園にも及んできている（後述）。

（幼稚園制度や幼児教育等、前の発発表と重複する部分の資料は、誌面の都合で省略）

## 2) 自然活動や食育活動の積極的实施

近隣在住の園児たちは、みな都会っ子で、土や、動植物に触れたり育てたりする経験も少ない。少子化と核家族化が進行する中で、とりわけ平成以降、室内でゲームや DVD 等の「間接体験」や「バーチャル体験」をして過ごす傾向が強くなり、園児の上に、戸外遊びや自然体験の少なさを顕著に感じるようになった。保育者たちが、子どもの身体発達の未熟さや体力の減少、怪我の多発に、危機意識を感じ始めたことから保育内容を考え始めた。

## 3) 保育カリキュラムの例—5 歳児の年間目標

### 1. 実体験を重視した教育

自然観察、球根植え、田植え、種まき、野菜、果物の栽培、収穫、料理の食育活動を積極的に取り入れている。園庭では、柿、びわ、夏ミカン、イチゴ、ニンジン、たまねぎ、じゃがいも、稲、さつまいも、トマト、きゅうり、なす、とうもろこし、かぼちゃ、大根、枝豆等の栽培。（栽培するものは、毎年クラスの園児たちと相談して、子どもたちが決める）

### 2. 年間の自然活動及び食育活動の実施

- ・ 柿もぎ、ブドウ狩り、ビワもぎ（試食、造形活動で観察画）
- ・ 庭の自然観察及び、散策
- ・ マーマレードジャム作り
- ・ ハッピーサマージュース（みかんジュース）作り
- ・ 梅ジュース作り
- ・ じゃがいも掘り（園で収穫と練馬区の農園での収穫の両方）
- ・ 夏野菜作り及び収穫（きゅうり、トマト、なす、トウモロコシ、大根等。サラダや漬物に）
- ・ カレー作り（自分たちで育てた、じゃがいも、ニンジン、玉ねぎを使って作る。）
- ・ 田植え（秋に稲刈り）（ご飯を炊く。刈った稲で草鞋、人形、正月飾りを作る。）
- ・ さつまいも掘り（園で収穫と練馬区の農園での収穫の両方）
- ・ 焼き芋（さつまいものつるは捨てずに、クリスマスリースにする）
- ・ くるみのケーキ作り（リンツアートルテ作り）、ぐりとぐらのケーキ作り

### 3. 栽培、収穫、食育の活動等を通してもたらされる子どもたちの発達

- ・とにかく、楽しい！
- ・食べること、実際に自分の手を使った栽培収穫、調理、試食は楽しいし、美味しい！
- ・食材は沢山の手順を踏んで、初めて美味しい料理になることを知る。手間や時間をかけて料理をすることは大変でも、みんなでできたてを美味しく食べる楽しさを感じることが出来る！

#### 4.その他

生き物の栽培、世話を通して、命の尊さを学ぶ。栽培、収穫を経験して、苦勞して野菜や果物が出来ていることを知り、食べ物への感謝の気持ちを持つ。調理を通して、化学変化を学ぶこと（炒める、煮る、焦げる、膨らむ等）や、ケーキ作りを通して、クルミを砕く、卵を割る、ふわふわに混ぜる等感覚的な体験ができる。子どもたち同士が協力して活動する中で、言語的な発達や社会性の発達が生じ、毎日の水やりや世話を通して責任感が育ち、生き物の成長を知る。

最も大切な幼児期を、子どもが遊びを通して過ごし、楽しみながら質の高い幼児教育を受けられるような環境を作っていくことの重要性を痛感している。大人ファーストではなく「子どもファースト」を、もっともっと発信していく必要があるのではないかと、保育者たちは考えている。

#### 4) 預かり保育の実施

##### ○行政や親たちからの要望

子育て支援新制度が実施されてから、地方で子ども園に移行する幼稚園が増え、保育園の待機児童が社会問題になり、都や区から、広い園庭と自然環境がある当園にも待機児童を引き受けてほしいとの打診があった。また見学に来られる小規模の認証保育所や保育園に子どもを通わせている保育者等からも、「ビルの保育園には園庭が無くて外遊びを思い切りさせられない。年長になると、公園の散歩だけではエネルギーがあまってしまう」等の申し出が増えてきた。そのため一昨年からは、月曜から金曜まで、毎日18時までの「預かり保育」を実施し、また長期休暇中の夏休み、冬休み、春休みも、8時から18時まで、希望者には預かり保育を実施することにした。園児の保護者にも仕事を持つ母親が増えてきて、毎日20～25名の子どもたちが、17時または18時まで園で過ごしている。さらに、ただ「預かる」だけでなく、楽しく家庭的な雰囲気の中で過ごすことを目標にしている。

##### ○預かり（延長）保育の内容—幼稚園の降園後にスタート

- ・2時～3時 室内自由コーナー遊び+先生が準備をした楽しい工作活動（したい子どもに）
- ・3時～4時 戸外自由遊び（砂場、遊具やごっこ遊び、三輪車、鬼ごっこ、ボール遊び、サッカー等）
- ・4時～5時 手作りおやつ作りのクッキング
- ・5時～6時 帰宅する子はその準備、6時まで保育の子は、おばけごっこ、探検ごっこ、粘土、お絵描きなど、自分たちがしたい遊びを話し合っ決めて、自由に過ごす。

#### 5) 私立幼稚園の行く手にある問題

以前、本区の保育園は40園だったが、現在は200園以上に増え続けている。一人の保育者を、50施設から100施設で奪い合わなければならないほど、保育者確保が難しい状況になっている。保育業界に企業が参入してきており、高額な給与や住宅手当等、幼稚園は企業に対抗することは

中々困難だと感じている。また政府も保育園には様々な補助を高額に支給している。(借り上げ社宅手当8万円等。)いくら保育を頑張っても、保育者がいなければ運営はしていけない。また働き方改革を政府は打ち出しているが、それを実行するには、余剰の人員が必要になる。今一番園として頭を抱えているのが、教諭の採用である。

さらに、定員割れしている幼稚園も少なくない現状から、私立幼稚園も保育園的要素を増やして、働く保護者の子弟も受け入れることを積極的にしていかないと、これから先は、園として生き残れないであろう。(了)

## 〈イベント情報〉(いずれも臨時増刊号に収録予定)

\*会員は参加費無料、一般参加者は千円

### 第5回ワークショップ「小学英語を考える」

日時：5月18日(土)(2時から4時)

於：東京駅八重洲口 ルノアール会議室

講師：滝口 優

司会：吉田佳代

### 第6回ワークショップ「自己肯定感をめぐって」

日時：8月3日(土)(2時から4時)

於：東京駅八重洲口 ルノアール会議室

講師：明石要一

司会：中山哲志

### 第7回ワークショップ「子ども問題の本棚から」

日時：11月9日(土)(2時から4時)

於：東京駅八重洲口 ルノアール会議室

講師：深谷昌志

司会：清 文枝

(以上)